

伊勢湾貧酸素情報（第 3 報）

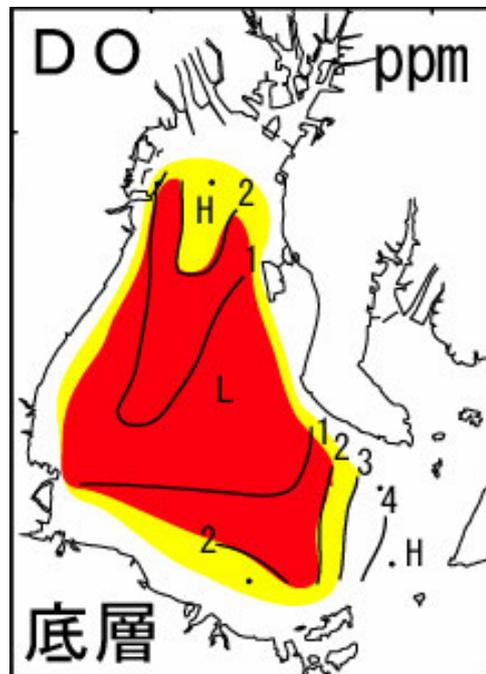
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾口部を除く、ほぼ湾全域で 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

8 月 1 1 日の調査結果

8 月 11 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 27.7～30.3℃、10m で 23.2～27.4℃、底層で 19.9～24.0℃の範囲にあり、表層と 10m で高め、底層ではやや高めとなっていた。塩分は表層で 16.70～29.40、10m で 28.48～32.48、底層で 30.24～34.01 の範囲にあり、表層では低め、10m で平年並～低め、底層で平年並となっていた。DO（溶存酸素量）は表層で 4.8～6.8ppm、10m で 2.9～6.0ppm、底層で 0.2～4.6ppm の範囲にあり、表層では低め、10m ではやや低め、底層では湾口部を除く、広範囲で 2ppm 以下の貧酸素水塊が形成されていて、湾中央部では 1ppm 以下であった。

調査時は湾奥部の表層では珪藻類のキートロスによる赤潮が発生していた。表層では高水温で低塩分、底層では高塩分傾向にあるため、上下混合が起こりにくく、底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ、今後、貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布